

有志舎の新刊です。2021年10月下旬刊行

# 赤松啓介

—民俗学とマルクス主義と—

岩田重則 著

四六判・ハードカバー・340ページ 本体価格 2,800円

80年代に「非常民の民俗学」「夜這いの民俗学」などで盛んに取り上げられた赤松民俗学は、本当に「異端の民俗学」だったのか？

みずからの生活圏の延長線上に課題を設定し、緻密なフィールドワークにより民俗学・考古学の調査研究を進めた赤松啓介の人生と、柳田国男の民俗学に敢然と反旗を翻したその学問の全貌を解明する。

(目次)

はじめに

I 現実社会のフィールドワーカー

- 1 故郷からの「栗山一夫」の民俗学
- 2 マルクス主義文化運動の民俗学

II 実践による総合的地域調査研究者

- 1 故郷からの「赤松啓介」の地域研究
- 2 故郷からの「赤松啓介」の考古学

III 民俗解体のための現代民俗学

- 1 生産関係の民俗学
- 2 民俗学の体系的構成と実践

IV 沈潜し発酵する懐疑

- 1 文化運動と研究の再出発
- 2 赤松民俗学の終焉と文化財保護運動

むすび

〈著者紹介〉岩田重則 (いわた しげのり) : 1961年生まれ、中央大学文学部教授。民俗学・歴史学専攻。

～版元から～ 1980年代に「非常民の民俗学」で広く知られた民俗学者・歴史家の赤松啓介。しかし、赤松にとって、それは晩年の一仕事にすぎませんでした。「非常民の民俗学」にすり寄せた知識人で、その後、赤松民俗学・考古学に言及する者がどれだけあったでしょうか。一方、赤松民俗学をもって教条的マルクス主義者とする安易な議論もありました。本書は、それらの言説に左右される事なく、赤松啓介の生涯とその学問・思想を、多くの作品から丁寧にひとつひとつとどろ、真の姿を明らかにします。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	<b>赤松啓介</b> —民俗学とマルクス主義と— 岩田重則 著	民俗学 日本史（近現代）
	ご担当	四六判・ハードカバー、340ページ 本体価格 2,800円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	<b>新刊</b> ISBN 978-4-908672-52-1 C1021	

ご注文は (株) JRC (人文・社会科学書流通センター) へ

返品条件付注文です。

FAX : 03-3294-2177

電話 : 03-5283-2230